

韓国における感情的分極化と投票参加

磯崎典世¹・宋財沄²

¹学習院大学 ²関西大学

2022年 9月 20日

問題設定

背景

- **政治的分極化**による民主主義の機能不全（Hacker and Pierson 2005）
- 支持的分極化を拡大させる要因として**感情的分極化**（Iyengar et al. 2019; Orhan 2021など）
 - 個人が愛着を持つ政治集団（内集団）と、それに反対する政治集団（外集団）
 - 内集団を肯定し、外集団には敵意を向ける。
- 以上の議論は主に政党組織/システムが安定したアメリカが対象
 - **民主主義の歴史が比較的浅い新興民主主義国家において感情的分極化は何をもたらすか**
 - 進行民主主義国家でありながら、比較的安定した選挙が行われている韓国を対象とした分析

韓国における感情的分極化

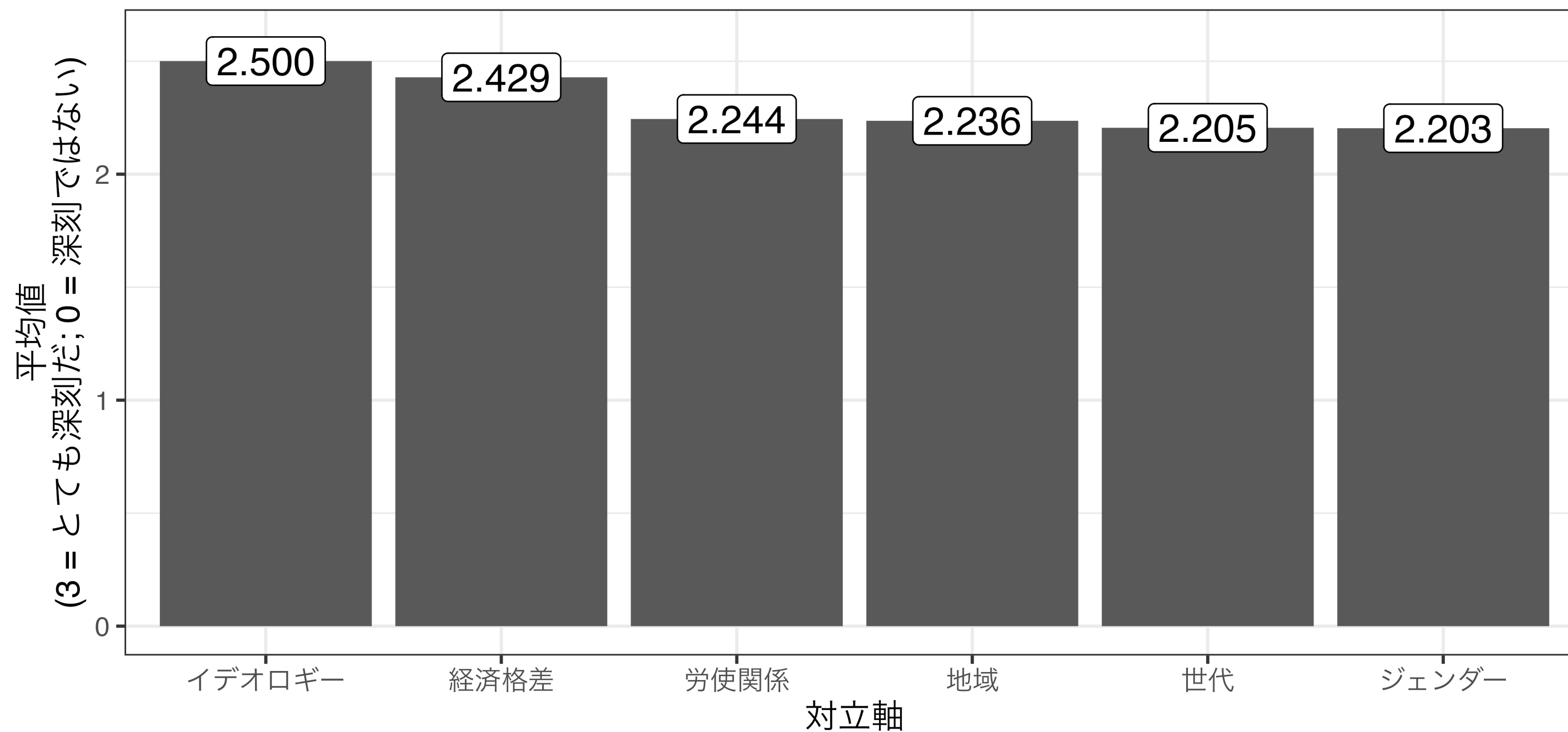
- 地域対立からイデオロギー、世代、ジェンダー、社会階層間対立へ（地域対立も残存）
- ローソク革命（朴槿恵弾劾）による保革勢力の大衆動員から対立の激化（鄭ドンジュン 2018）
 - 感情的分極化 \propto 党派性、イデオロギー、争点選好の強度（金ギドン・李ジェムク 2021）
 - 感情的分極化が非政治的領域（結婚など）へ与える影響（張スンジン・張ハニル 2020）
 - \Rightarrow 政治的領域（民主主義そのもの）への効果は？
- 政治勢力（政党/有力政治家）に対する感情的分極化と**その支持者**に対する分極化
 - イボンナム「2번남」 / イボンニョ「2번녀」、イデナム「이대남」、ケタル「개딸」などのレッテル貼りと内集団と外集団の区別
 - \Rightarrow 非エリートへの感情的分極化がもたらす効果は？

- イボンナム 2번남 / イボンニョ 2번녀（2番男/2番女）：ユンソンニョル記号2番（尹錫悦）に投票した男性/女性
- イデナム 이대남（二代男 \rightarrow 梨大男）：20代男性（主にアンチフェニズムの保守イデオロギー）
- ケタル 개딸（犬娘）：革新イデオロギーの若い女性

<https://www.jaysong.net/>

韓国における対立軸

- 回答者が認識する韓国の対立（第2波調査）



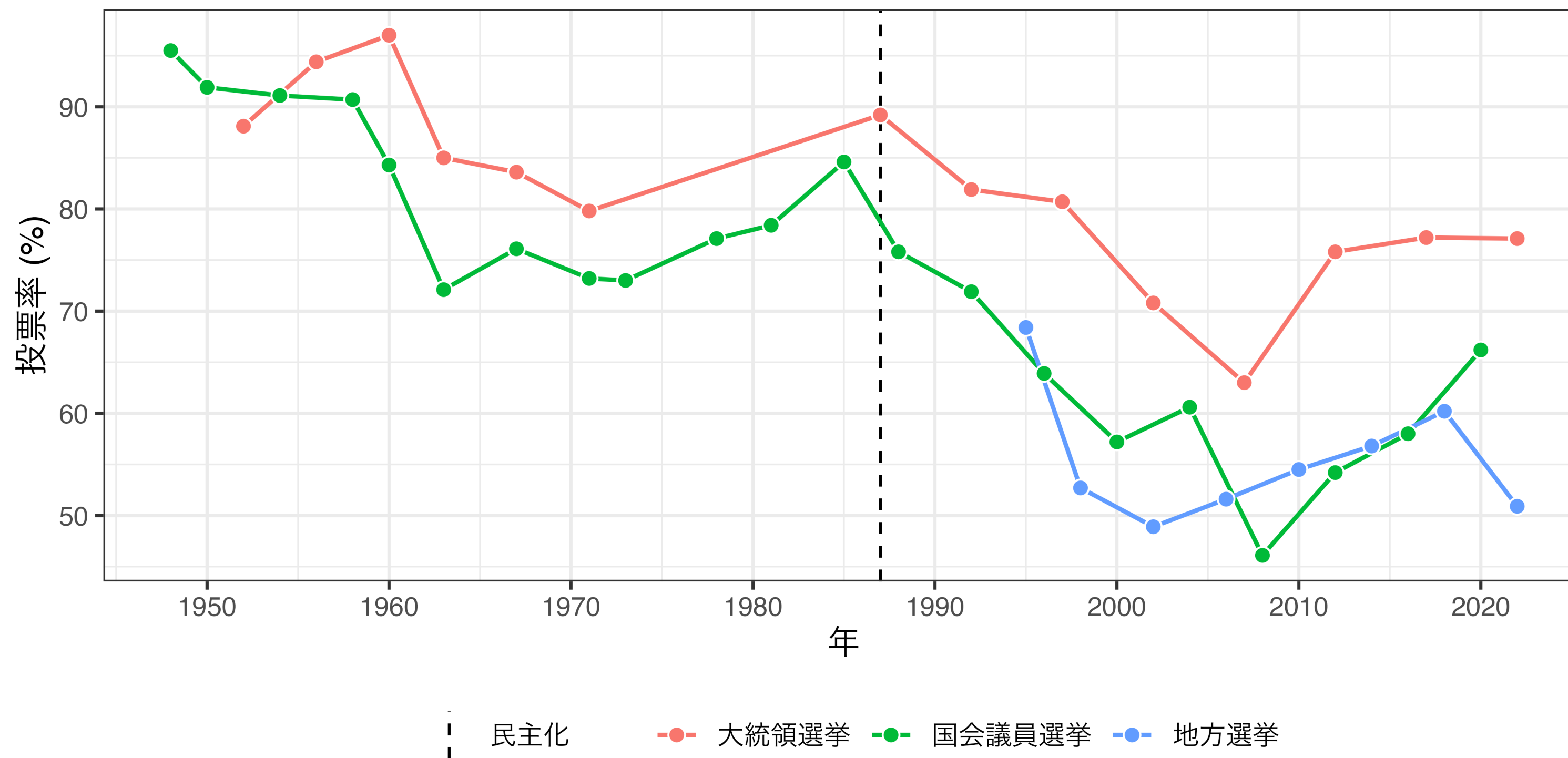
仮説

- 内集団の候補者が当選することによって高い効用を獲得し、外集団の候補者が当選することによって低い効用を獲得
- 感情的分極化の程度が大きい有権者の場合
 - 効用の差（expected party differential）が拡大 \Rightarrow 選挙を「高い賞金を巡る競争（high stakes competition）」と認識（Ward and Tavits 2019）
 - 合理的有権者の投票参加モデル（Riker and Ordeshook 1968）における B 項に相当
 - $\Rightarrow B$ は投票参加と正の関係
- **仮説:** 感情的分極化の程度が大きい有権者ほど、投票に参加する傾向がある。

なぜ韓国か

- **一次的選挙**（first-order election）：政権選択に関わる選挙（Reif and Schmitt 1980）
 - 韓国の大統領選挙; 注目度が高く、そもそも投票率が高い
- **二次的選挙**（second-order election）：一次的選挙以外の選挙
 - 韓国の国会議員選挙、地方選挙
 - 中でも地方選挙は**注目度が低く**、比較的、真空状態に近い状況（三次的選挙?）
 - 地方選挙における高い政党の組織化率（拘束名簿式比例代表の存在; 地方選挙と国政のリンクの強さなど）

韓国の投票率の推移



分析方法

データ

- Dynata社にパネル登録した18歳以上の韓国人
 - 割付は行われず、国勢調査に基づき、分析の際、事後補正（性別・世代・地域）
- 調査期間
 - 第1波：2022年5月25日～31日
 - 第2波：2022年6月2日～6日
- サンプルサイズ
 - 第1波：2,009名
 - 第2波：1,002名（全員、第1波回答済み）
- 調査方式：インターネット（Qualtrics）

感情的分極化の測定

- 感情温度を使用した感情的分極化の操作化
 - 感情温度は**主要3政党、主要3候補者、主要3政党の支持者、主要3候補者の支持者**に対する感情温度に対して測定し、4種類の感情的分極化指標が得られる。
 - スライドでは、説明変数として「**主要3政党**に対する感情的分極化」を使用
 - 主要3候補者（政党）：李在明（共に民主党; 中道革新）、尹錫悦（国民の力; 中道保守）、沈相奭（正義党; 革新）
- 感情的分極化の操作化: Wagner (2021)

$$AP_i = \sqrt{\sum_{j=1, j \neq q_i}^3 v_j (x_{ij} - x_{iq_i})^2}.$$

- i : 回答者 / j : 政党（の支持者）、候補者（の支持者）
- AP_i : 感情的分極化の度合い ($0 \leq AP_i \leq 100$)
- v_j : 2022年大統領選挙における主要3候補者の得票率
- x_{ij} : j に対する i の感情温度
- q_i : 最も好む j

モデル (1)

- 応答変数1：投票参加の意向（第1波で測定; $\text{Intention}_i \in \{1, 2, 3\}$ ）
 - 線形回帰分析

$$\widehat{\text{Intention}}_i = \beta_0 + \beta_1 \text{AP}_i + \sum_{j=1}^J \gamma_j X_{ij}.$$

- 応答変数2：投票参加（第2波で測定; $\text{Turnout}_i \in \{0, 1\}$ ）
 - ロジスティック回帰分析

$$\Pr(\widehat{\text{Turnout}}_i = 1) = \text{logit}^{-1}(\beta_0 + \beta_1 \text{AP}_i + \sum_{j=1}^J \gamma_j X_{ij}).$$

モデル (2)

- **説明変数**：感情的分極化
 - 政党、政党の支持者、候補者、候補者の支持者に対する感情温度の基づいて操作化された計4種類（メインの結果は政党に対する感情的分極化）
 - ⇒ 計8モデル（2つの応答変数 × 4つの説明変数）
- **その他共変量**：性別、年齢、最終学歴、世帯収入、出身地域、居住地域、政治関心、内的政治的有効性感覚、外的政治的有効性感覚、保革自己認識
- 2015年国勢調査の性別・世代・地域に基づき、重み付け
 - 党派性、投票有無、重みなしでも（ほぼ）同じ結果
 - 推定結果の詳細は[online appendix](https://www.jaysong.net/)を参照

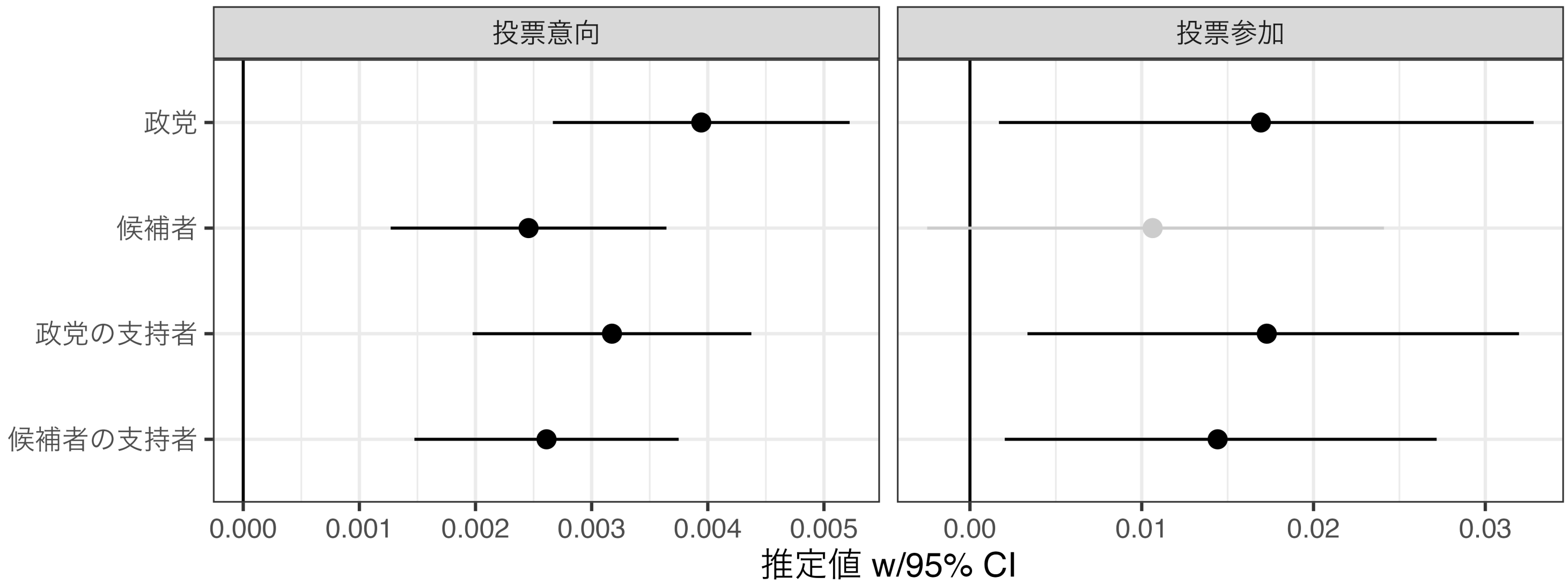
分析結果

推定結果

- 一つのモデルを除き、本研究の仮説を支持
 - 感情的分極化の拡大 → 投票参加

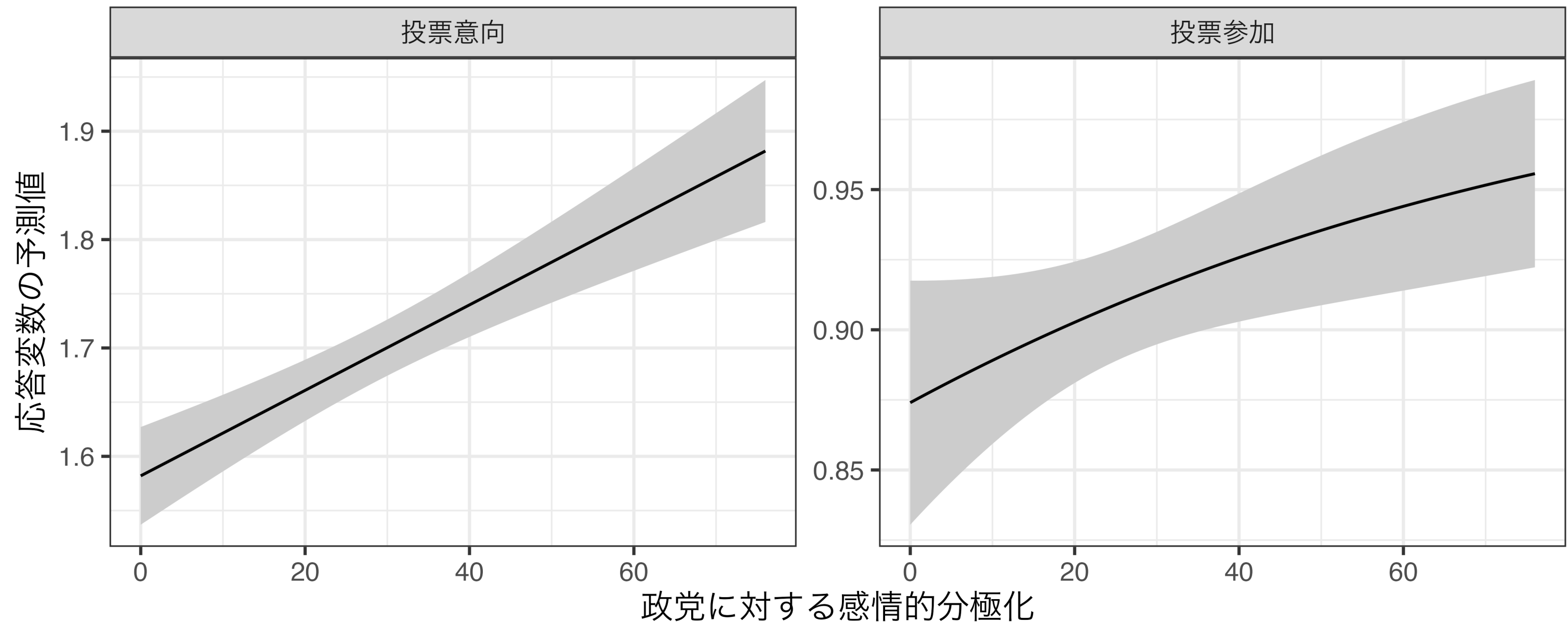
図

表



予測値

- 政党に対する感情的分極化が最小値から最大値へ変化した場合...
 - 投票意向: 約0.3↑ / 投票参加: 約8.2%p↑



効果量

- 投票意向：約0.4～0.5SD分 / 投票参加：約0.2～0.3SD分

	最小値	最大値	差分	効果量
投票意向 (SD = 0.583)				
政党	1.582	1.882	0.300	0.515
候補者	1.610	1.851	0.241	0.414
政党の支持者	1.606	1.914	0.309	0.530
候補者の支持者	1.608	1.864	0.256	0.440
投票参加 (SD = 0.305)				
政党	0.874	0.956	0.082	0.268
候補者	0.882	0.950	0.068	0.223
政党の支持者	0.871	0.965	0.094	0.309
候補者の支持者	0.869	0.949	0.080	0.263

おわりに

- **結論:** 感情的分極化は投票参加を促す（効果量は約0.25SD分）
 - これまで注目されてきた政党に対する感情的分極化だけでなく、非エリートへの感情的分極化についても同様
- **含意**
 - 高い投票率が望ましいのであれば、感情的分極化は民主主義にとって良い現象か
 - 感情的分極化が進んでいる有権者が課題代表される可能性
 - （政党・候補者が応答的であれば）対立の再生産へ
 - 感情的分極化と民主主義の質の低下（Harteveld and Wager 2022） ⇔ Brookman et al. (2022)
- **課題**
 - 国政選挙（大統領、国会議員）選挙における感情的分極化の役割
 - 選挙区レベルの競合の度合い
 - 無投票当選、地域主義投票行動の存在により、投票率が極めて低い地域など